

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年5月18日（月）18：30～19：00

場所：内閣府

【冒頭発言】

グアムでの首席交渉官会合について説明する。当初、15日から開催する予定であったが、台風により15日は行われず、16日も倒木による交通障害や、停電による信号停止の結果、午前に行われず、午後2時から全体会合が行われた。最初、全体的な議論が行われ、毎回議論しているとおりの、グアム会合ではどのような姿勢で臨むのかについて議論した。閣僚会合についても、当然話題にはなったものの、そもそも首席交渉官で決める事項でもなく、諸情勢次第であり、閣僚会合とは別に、グアム会合では詰められることは詰めてしまおうとの話になった。本日は16日、17日、18日の分について報告する。

16日は、最初に、労働章をオタワ会合以来久し振りに扱った。論点は2つ残されており、一点目については、ある一カ国がもう少し待ってほしいとの意見であったので待つこととなった。2点目は、テキストの確認のような論点であるが、確認の結果、国内調整が必要となったため、その結果次第で、労働章は最終日まで終わりそうな雰囲気である。

電子商取引については、テキスト上の残された論点は1点だけであるが、最後まで意見を言っていた国が一カ国あり、国内調整をするとのことであったので、これも最終日まででクローズできそうな感じである。

貿易救済については、ある一カ国がこだわっている論点があり、結果として、グアム会合中にこの国と関心国との間で調整することとなっており、確定ではないが終わりそうである。

TBTについては、他の協定との関連について技術的論点がオタワ会合以来残されており、毎回議論してきたが、ようやく解決をみた。また、附属書の書きぶりで技術的な調整が残っていたが今回解決した。この時点で、TBT章は、事実上クローズした。

紛争処理については、他の章との関係で残されている論点を除けば、単独で残っている論点が3つあり、いずれもある一カ国が意見を言っていたが、今回の議論の結果、この国が国内調整を進めていくことを約束した。

16日はこのように、今まで閉じそうで閉じなかった論点を閉じたところ。

17日は、透明性・腐敗防止について、テキスト上、残されていた論点が一点だけであり、この論点は各国が関係する課題であるが、これまでの宿題に対して各国の対応が余り進んでいなかったことから、これをきちんと進めるようにと

いう指示があった。

政府調達については、テキスト上、2点論点が残っている。一点目は、もめる話ではないが、主張していたある一国が拘らないものの最後まで引っ張ると言っており、置いておくこととなった。また、もう一点について、議論の結果、主張している国が降りそうな雰囲気である。もう一つの論点もあるが、事実上収束しそうな雰囲気である。また、政府調達の国別市場アクセスについては、二国間で交渉中であるが、非常に高い基準額を提示してきた国が、額を引き下げてもよいが国内調整プロセスが必要としており、そのプロセスに入ることを約束した。

18日は、知的財産の第1回目が行われた。知的財産については、この後、20日（水）にも議論されることが決まっている。今までは、閣僚に上げない論点について首席交渉官会合でクローズさせようとしてうまくいかなかったが、今回は、閣僚にあげない論点でも特に纏めやすい5つ程度の課題について集中的に議論を行った結果、片付いたとまでは言えないが、整理、解決の方向性が出てきた。

ここまで3日間、以上のように、片付けられるものは片付けようという雰囲気が進んできている。

鶴岡首席交渉官による二国間協議については、14日に4カ国、15日に1カ国、16日に2カ国、17日に1カ国、18日に2カ国との間で行ってきており、重複している国もあるため、国数としては7つである。また、市場アクセスに関する事務的な二国間協議については1カ国との間で行った。

閣僚会議をいつ開催するのかについて、ご質問をよく頂くが、正直、わからないところであり、現時点では、首席交渉官会合での進捗状況や米国議会の動向を見て判断されるということであって、開催するともしないとも決まっていない。我々も困っている。

【質疑応答】

（記者）これまでの会合でクローズしたのは、29章中10章であったが、今回クローズしたのは、加えて1章という理解でよいか。

（澁谷審議官）TBTについては、事実上クローズしたと言ってよい。残りは、国内調整を経ることになっており、グアムにいる間で終わるものがある。

（記者）明日以降、決まっている日程はあるか。

（澁谷審議官）台風の影響で日程が乱れている。20日に知財を扱うことは決まっているが、それ以外には、午前中は二国間協議、午後に全体会合を行っているので、全体会合については、その都度、それまでの交渉状況をみて決まりそうな状況。本日举行予定であった国有企業についても、明日行うかどうかは不

明。

(記者) 閣僚会合を開催することになれば、大筋合意のための会合となるのか。

(澁谷審議官) 単なるチェックイン、即ち、進捗状況の確認のための会合であれば、行うべきでないと考えている国は多い。

(記者) T P A が成立しない状況で閣僚会合が行われた場合、単なるチェックインの会合になるのか。

(澁谷審議官) T P A が成立しない場合は、閣僚が集まっても本当に合意に至るのは難しいのではないかと誰しも思っているだろうが、いろいろなオプションがあるのではないかと。

(記者) チェックインのためであれば閣僚会合やるべきでないというのは全体会合で言われている意見か。

(澁谷審議官) 全体会合で閣僚会議の開催の是非について堂々と発言している国は少ない。どうなるにせよ、自分のせいにはされないよう、各国とも言い方は慎重である。

(記者) 知財については、20日(水)も纏められそうな論点を扱うのか。

(澁谷審議官) 20日は、今日よりは難易度の高いものを扱うことになるだろう。

(記者) 知財について、閣僚マターの案件も扱うのか。

(澁谷審議官) どこかのタイミングで議論することになると思う。

(記者) 市場アクセスに関する事務レベルの協議について、その他の国との予定は。

(澁谷審議官) 大江首席交渉官代理が、今週半ば以降、日米の事務レベル協議をやる方向で調整中であるが、未確定。

(記者) 毎回、全体会議の冒頭、各国の状況について説明があると思うが、米国から T P A 法案について何か発言があったか。

(澁谷審議官) T P A 法案について発言はあったようであるが、内容については申し上げられない。

(記者) 閣僚会合は行われるとすればグアムで行われると理解してよいか。

(澁谷審議官) それは分からない。

(以上)